

平成23年度 中央区にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金交付事業の概要

資料7

事業名 / 団体名	事業の目的	事業内容	実施方法	住民等の参画及び共同	事業の継続的運営	事業の効果	補助対象経費	交付決定額
① 「ふれジョブ新潟中央区(鏡淵)」 ふれジョブ新潟中央区(鏡淵)	障がいのある子どもたちが、自分の生まれ育った町で自立して暮らしていけるようになるために、職場体験を行い、この活動を通して、自信や職業観、適正などを養うと共に、地域とのコミュニケーションを図る。	障がいのある子どもたちの地元企業での職業体験。 地域のボランティアが付き添い、放課後や休日を利用して一週間一回、1時間程度実施。 地域のみんなで障がいのある子どもたちを見守り育てる活動。	ボランティア(ジョブサポーター)の募集 体験職場の企業の募集 交流会の開催 定例会の開催 保護者の会開催 パンフレット配布	事務局のボランティア、学校、企業の募集活動を通じて、企業と地域をつなぐ働き掛けが行われる。	地域住民の信頼と協力を得ながら、ボランティアや、職場体験の場を提供できる企業を徐々に増やしていく。	①保護者、地域住民、地域企業、学校が、活動を通じてより親密にコミュニケーションを図れる。 ②子どもたちに「働く」ことへの喜びが生まれ、社会性が育つと共に係わり合いを持つ地域の活性化が図れる。	221,000	200,000
② 「災害時要援護者・高齢者の安心・安全見守りたい(隊)」 みなと町自治会	高齢者の社会的孤立を防ぐために、自治会ボランティアと小学生及びその保護者が一体となって家庭訪問等の巡回を行いながら、世代間交流と独居高齢者に対する「見守り」を行う。	自治会住民からなる「見守り隊」による定期的な家庭訪問 定期的に「カラオケ教室」や「ダンスを愉しむ集い」等を実施 「敬老の日」にボランティアはじめ、小学生とその保護者が高齢者宅を訪問して世代間交流を図る。	自治会住民からボランティアを募集 家庭訪問時に「チェックリスト」による安否確認を行う。 「歌う集い」「ダンスを愉しむ会」等で毎週「集会所」を利用する事業を行う。 「敬老を祝う会」を行う。	当自治会は70歳以上の高齢者が占める割合が多く、隣には必ず高齢者が居住し、昔から培われた下町気質のためボランティアに参加する方にも大きな負担を掛けることなく、気軽に「見守り」や「声かけ」を行える。	現在も一部実施している自治会事業等を発展的に継続させていくこと、また経費については自治会住民からこの事業の意義を十分に理解してもらい自治会財源から支出する。	①高齢者、特に高齢独居者の社会的孤立が改善される。 ②要援護者及び高齢独居者に精神的な安堵感を与えられる。 ③児童生徒の介在で世代間交流が増進される。 ④地域住民の愛情・互恵精神を涵養することができる。 以上4点から、地域住民の「地域の絆」「ささえあい」の意識がより高くなる。	373,750	200,000
③ 「みんなの家 とともに」 みんなの家 とともに	友だちのように家族のように、みんなが自然に集まり共に過ごせる「居場所」を作ること、人と人が繋がれる場、子育て・介護支援を支える場、障がいのある人の活躍の場とし、世代交流や障がいのある人への理解を促進する。	いつでも誰でも利用できる地域の居場所づくりと同時に、子育て・介護、家族支援、障がい者の就労支援を行う。 ①居場所サービス ②ケアサービス(日中一時支援的サービス) ③障がい者就労支援 ④地域交流	一軒家を借りて、人々の交流の拠点となる地域の居場所「みんなの家」を作る。	地域住民による利用、またボランティアとしての参加や協力。 各種講座や教室開催時には講師として、地域住民の活躍の場を作る。	一人ひとりのニーズをくみ取り、対応し信頼を得ることで利用者を増やし、利用者収入を安定させる。また賛助会員を増やし財源を確保できるように務める。 福祉関係の教育機関との連携やボランティアの確保に努める。	①無縁社会からつながりある社会へ 地域の中に“人と繋がれる場”“助けを求められる場”が生まれる。 ②子育て・介護家族支援 子育てや介護を家族だけでなく、地域で支えていくという仕組みのひとつとしての役割を担う。 ③地域交流の促進 世代や障がいの有無を越えた交流が生まれ、地域の中で誰もが安心し、支えあえる共生社会の構築。 ④障がい者の地域生活支援 障がいのある人の就労の場・活動の場が増える。地域の人々と交流できる仕事(居場所づくり)をしてもらう中で、障がいのある人を地域社会の中心から切り離さない。 ⑤地域の茶の間の、子育て支援センター的、学童保育的役割を合わせ持つ場が地域にできる。	1,131,641	200,000